

国立病院機構熊本医療センター

No.160



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成22年度第1回(通算第29回)開放型病院連絡会開催される

平成22年度第1回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、MSW（ソーシャルワーカー）、事務の方なども含めて多数の皆様に参加していただき、9月2日木曜日19時より、くまもと県民交流館（鶴屋東館）パレアホールにて開催されました。

開始に当たり、池井 聡院長がご参加の皆様へ、日頃より当院をご支援頂きますとともに病病・病診連携では大変お世話になっておりますことに対しまして御礼を述べた後、新病院駐車場の工事状況及び防災ヘリ基幹施設の認定経緯などをご報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福島敬祐先生よりご挨拶をいただきました。福島先生は、この開放型病院の意義を再確認され、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携が進むことを希望される旨お話しいただきました。続く全体会議では、熊本市医師会理事の田中英一先生と、私が進行を担当し、臨床トピックスとして、まず糖尿病・内分泌内科、豊永哲至医長より、“新しい糖尿病薬インクレチン関連薬の特徴と使い方”の講演がありました。続いて、病院からのお知らせで、駐車場、ヘリポート、院内保育園などの今後の工事予定につきまして末次剛輝企画課長よりご説明致しました。引き続いて、片渕 茂地域医療連携室長（外科部長）から、地域医療支援病院の登録医の院内及びインターネットホームページへの掲示につきましてご説明致しました。掲示をご希望の施設はいつでも受け付けますので、地域医療連携室までご連絡

下さい。その後、全体会議では、フロアからのご質問をいただき、最後に、熊本市歯科医師会長清村正弥先生より、当開放型病院と熊本市歯科医師会との関係につきご挨拶をいただき、全体会議をまとめていただきました。総会終了後は、会場を鶴屋ホールに移し、意見交換会を開催しました。熊本市医師会長の福島敬祐先生にご挨拶をいただき、熊本市医師会副会長、加来裕先生の乾杯の音頭で開宴しました。各テーブルには、各科の名前を明示し、各科の医師及び看護師、各部門の責任者、MSWなどが待機して懇談をさせていただきました。前回に続き医師以外の方の参加者も多く、MSW、病診連携担当の方々などとの顔の見える病病・病診連携ができ、意見交換が積極的に行われ、大変実りの多い意見交換会になったと思われます。

（副院長 河野 文夫）



福島 敬祐先生のご挨拶

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



## 「こんなに小さかったのに…」

医療法人社団 益昌会  
たなか益田クリニック  
副院長 田中 敬子



上熊本で開業しております、たなか益田クリニックの副院長で皮膚科医の田中敬子です。本妙寺踏切横より現在の地に移り、40年来となった、4階建ての益田外科医院を取り壊し、3年前にたなか益田クリニックとしてリニューアルオープンしました。

現在、父が従来の外科、整形外科を、心臓血管外科医の主人が循環器、内科を担当し、私が、皮膚科、美容皮膚科を担当しています。2階の美容皮膚科では、レーザーフェイシャルやレーザー脱毛、難治性

痤瘡やホワイトニングのためのケミカルピーリングやイオン導入等を行っております。美容皮膚科へは、10代～80代の方々まで、幅広い年齢層の方々が来られ、美容への高い欲求や関心は高まるばかりです。

生まれた時より、病院の横に住んでいましたので、私の幼少時より通院していらっしゃる方々は、「こんなに小さかったのにねー。立派になって…。」と言って下さる方々もいます。医者としてはまだまだですが、体型は、立派になりすぎ、隣の診察室で自分の体型はしっかり維持して、メタボの指導をしている主人に悪いなーと思う今日この頃です。ビリーズブートキャンプ、コアリズム、トレーシーメゾット等DVDやグッズはたくさんとりそろえてありますが、仕事、家事、子育てに追われ、なかなか進まない毎日です。

久留米大学を卒業し、熊大皮膚科に入局し、熊本労災病院、麻生飯塚病院などを経て、熊本医療センターの皮膚科では、前川部長先生の時代に数年間働かせていただき、いろいろと勉強させていただきました。現在は、皮膚科や形成外科に手術や難しい症例をいつもお世話になっております。父や主人の患者様の急変や精査の際等もお世話になっております。地域の患者様も私どもも、近くに病診連携のできる熊本医療センターがあることは、大変心強く助かっております。

## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表 096-353-6501 内線 2360）またはFAX（医事 096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 中村 敦）



# 新病院施設紹介〈11〉

## 薬 劑 科



外来薬局窓口



抗がん剤無菌調製室  
(安全キャビネット)



無菌製剤室  
(クリーンルーム+クリーンベンチ)



製剤室



実習・研修室



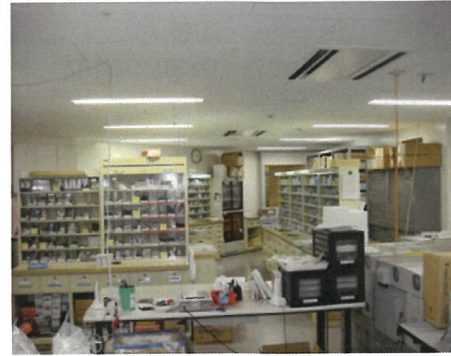
試験室 (治験薬保管室)



入院投薬ボックス



エアシューター



調剤室・注射剤室

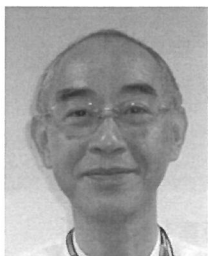
新病院では薬剤科は念願のワンフロア（2階）で新たな業務のスタートを切りました。従来の調剤業務・注射薬の払い出し業務に加え、医薬品の適正使用と安全管理に重点を置いた薬剤管理指導の実施とDPCに関連した後発医薬品の採用と同効薬の見直しさらには、外来および入院患者さまの化学療法では抗がん剤無菌調製の実施と指導を行っています。外来では、原則として院外処方せんを発行していますが、院内でお薬が必要な場合は4階（外来）から2階（薬局）へと離れております関係上患者さまにはご迷惑をおかけしています。調剤関係では簡易懸濁法を推進し、治験薬の適正管理もしています。また、5月より薬学6年制教育に関連した薬学生の長期実務実習（11週間）の受け入れを開始しました。そして今年より日本医療薬学会の研修認定・がん専門研修認定施設に指定されました。くすりの勉強会、臨床薬理セミナー等も企画していますのでご参加よろしく願いいたします。

（薬剤科長 舛重 正人）

**2010**  
**診療科紹介 (29)**  
**血液・膠原病内科(骨髄移植センター)**



**副院長**  
**河野 文夫**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、出血傾向、膠原病  
 日本内科学会総合内科専門医  
 日本内科学会指導医  
 日本血液学会指導医・専門医  
 日本リウマチ学会専門医  
 外国人医師臨床修練指導医  
 日本がん治療認定機構暫定教育医  
 熊本大学医学部臨床教授  
 エジプトファイユーム大学医学部客員教授  
 インフェクションコントロールドクター



**教育研修部長**  
**化学療法センター長**  
**清川 哲志**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療、総合内科  
 日本内科学会指導医  
 外国人医師臨床修練指導医  
 熊本大学医学部臨床教授  
 日本血液学会・日本造血細胞移植学会



**医長**  
**日高 道弘**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療  
 日本内科学会総合内科専門医  
 日本内科学会指導医  
 日本血液学会指導医・専門医  
 外国人医師臨床修練指導医  
 日本臨床腫瘍学会暫定指導医  
 インフェクションコントロールドクター



**医長**  
**長倉 祥一**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療、後天性免疫不全症 (AIDS)  
 日本内科学会指導医・認定医  
 日本血液学会専門医  
 日本造血細胞移植学会



**医長**  
**武本 重毅**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、ATL、貧血、膠原病、移植医療  
 日本内科学会指導医・認定医  
 日本内科学会指導医・専門医  
 外国人医師臨床修練指導医  
 日本医師会認定産業医  
 日本臨床腫瘍学会暫定指導医



**医長**  
**原田 奈穂子**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療  
 日本内科学会指導医・認定医  
 日本血液学会専門医  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
 日本造血細胞移植学会



**医長**  
**榮 達智**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療、緩和ケア  
 日本内科学会指導医・認定医  
 日本血液学会専門医  
 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医  
 日本造血細胞移植学会



**医師**  
**塚本 敦子**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病  
 日本内科学会総合内科専門医  
 日本内科学会指導医・専門医  
 日本血液学会指導医・専門医



**医師**  
**井上 佳子**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療  
 日本内科学会指導医・認定医  
 日本血液学会専門医  
 日本造血細胞移植学会



**医師**  
**樋口 悠介**  
 内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療  
 日本内科学会  
 日本血液学会  
 日本造血細胞移植学会

**特色**

白血病、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血など主に血液疾患に診療を行っています。治療経験・症例数および専門スタッフ数（日本血液学会専門医9名）は全国でも有数の診療施設です。また熊本県で唯一、骨髄バンク、臍帯血バンクに認定された骨髄移植実施施設であり、その症例数は九州ではトップクラスです。平成21年9月に完成した新病院には血液病棟に15床からなる無菌ユニットが設置され、最大17床の無菌室体制が可能となりました。また、エイズ拠点病院担当科であり難病とされます関節リウマチ、SLEなどの自己免疫疾患（膠原病）の診療も行っております。



## 南カリフォルニア大学病院副院長 ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて



研修の様子

当院では、平成22年8月30日から9月2日まで、南カリフォルニア大学病院の副院長であるジェフリー・ヘーゲン先生をお迎えして、研修医を中心に職員研修を行いました。南カリフォルニア大学病院はロサンゼルスダウンタウンの中心部にあり、全米で最大規模の救急救命センター（ER）があります。年間1200例を超える銃創や刺創の重症外傷患者が来院するERでは、3組の外傷チームがあり、交代で治療に当たっています。このチームには、外科のスタッフドクター、シニアレジデント、ジュニアレジデント、外傷ナース、

外傷放射線技師などが含まれています。救急車から、重症の外傷患者が搬送される連絡を受けると、この外傷チームのアラームが鳴り（Trauma Team Activation）、患者の搬送直後から、患者の治療と評価（Evaluation）が同時に行われます。必要なら、ERでの開胸心臓マッサージや大動脈遮断が行われます。何を隠そう、ここ南カリフォルニア大学病院は、全米でも最も早く外傷チームを立ち上げた病院なのです。ヘーゲン先生には、このような刺激的な講演をしていただくとともに、研修医に英語による症例発表や病棟回診を行っていただきました。また、シリコンモデルを用いた結腸吻合のスキルトレーニングも行っていただきました。ヘーゲン先生の来院は今回で4回目になりますが、すっかり当院を気に入っていただき、廊下ですれ違う看護師さんや患者さんたちに気軽に挨拶をされていました。また、研修医たちも最初は緊張していましたが、先生の優しい対応に安心したのか、後からはすっかり馴染んでいました。

このような北米の教育指導者を招聘しての研修は、研修医だけでなく、我々指導医にとってもアメリカの医療事情を知る良い機会であり、大いに勉強になります。今後ともヘーゲン先生を始めとして多くの指導医を招聘していきたいと思えます。

（臨床研究部長 芳賀 克夫）

## ヘーゲン先生との研修を終えて



研修医1年次

西東 洋一

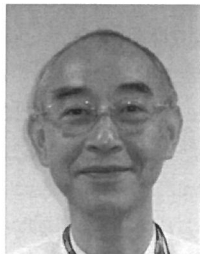
8月30日から9月2日までヘーゲン先生が当院におみえになり、1年目の研修医は英語による症例呈示をさせていただきました。急遽ヘーゲン先生の来日が早まったため、スケジュールは多少無理をしたところもありましたが、ヴァンス先生のプレゼンテーションご指導の甲斐もあり、皆それぞれ聞き手が理解しやすい工夫を加えたプレゼンテーションを作成し本番に臨みました。発表は非常に緊張しましたが、それぞれがヘーゲン先生に発表の要旨を伝えることができました。ヘーゲン先生もネイティブと比較すれば足元にも及ばない

であろう私たちの英語の発表に熱心に耳を傾けていただき、しかも1つ1つの発表ごとに必ず質問をしていただきました。英語教育の重要性は医療界のみならずすべての分野で言われていることですが、研修医にとって日常で英語を必要とする機会は乏しいのが現実です。今回のプレゼンテーション作成を通して、いかに自分の英語力が非力なものか実感させられました。また同時に、妙に文法や型にとらわれず、伝えたい意思さえがあれば、つたない英語でも何とかコミュニケーションがとれるということも知りました。英語の鍛錬と同時に、物おじしない姿勢を育てることの重要性を痛感させられる研修でした。

夕方の講演会では、大規模でかつシステムティックな米国医療に驚かされました。また、縫合実習では、日本でもあまり行われないものの、米国では主流となっている腸管吻合の縫合法について研修させていただきました。さらに、講演後の宴会の席では、ヘーゲン先生のプライベートのお話も聞くことができ、非常に興味深かったです。ヘーゲン先生との一週間を通して、英語教育、および米国医療の一端を垣間見たのももちろんのこと、米国のドクターの日常を知ることができ、大変有意義な研修ができました。

## 最近のトピックス

### 総合診療の取り組みについて



教育研修部長

清川 哲志

総合医療センターの総合診療に患者さんをご紹介いただき大変有り難うございます。当院の総合診療の診療内容につきまして紹介したいと思います。

専門化された医療の中で、診療科の特定できない患者様の診療を行っています。総合医療センター（内科）には腎臓内科、血液内科、糖尿病・内分泌、呼吸器科、神経内科が含まれますが、月に約400名前後の新患があり、その中で総合内科を受診する方は40名前後となっています。取り扱う主な症状としては、不明熱、部位のはっきりしない疼痛、全身倦怠、体重減少や健康不安といったものです。専門にとらわれることなく総合的な見地からの診断を行い、専門治療が必要な場合はそれぞれの診療科へ紹介し、また場合によっては共同で診療しています。

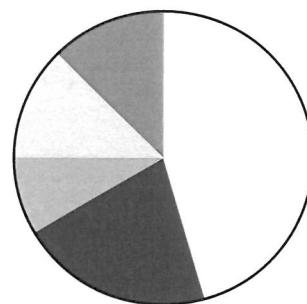
当院での総合診療の面白さは、診断過程にあります。患者さんの訴えをしっかり聞き、教科書でしか読んだことのない症状を診て、検査計画を立てて検体検査と画像検査CT、MRIなどをフルに活用します。受診

したその日のうちに専門家の意見を聞きながら診断に至るときには診療のやりがいを感じます。

受診される方の中には、自分は何らかの病気ではないか、または癌ではないかという健康不安の方がいらっしゃいます。健康不安、癌不安の方については、健康であることを保証することは困難ですが、スクリーニング検査を見合わせて出来るだけ不安を取り除くようにしています。このような方の中にうつ傾向の方も多いのですが、内科でも診療できるうつ病であるかを判断し、内科では治療困難なうつ病は精神科への橋渡しを行います。

当病院での総合診療は、一つの部門として独立していませんが、担当医の専門領域をしっかりと自覚しその上で、それを外れる領域について院内の専門家としっかり相談し、患者さんの不安に対応できるコンサルト役をすべきであると考えています。

### 総合診療で取り扱う症状



- 発熱
- 疼痛
- 腫脹
- 倦怠感
- その他

## 小児科アレルギー外来の初診予約について (電話での予約をお願い致します。)

先生方には平素より患者様のご紹介で大変お世話になっております。

当科では月・金曜日にアレルギー外来を行っております。

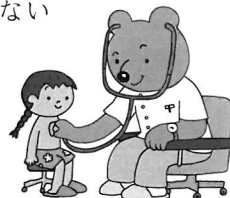
アレルギー疾患では詳細な問診が必要ですので、初診の患者様につきましては30分～1時間ほど診察時間を要するため、午前中、1日2名の予約制（①9時～②10時～）にて診療させていただきます。

最近はおかげさまでご紹介患者様が増えありがたく存じております。しかしながら、完全予約制で、すでにかなりの予約がございます。せっかくご紹介いただき受診されても、予約されていない場合は診察ができかね患者様にご迷惑をかけることとなります。

お忙しい中、大変お手数ですが、受診の際には患者様より前もって小児科外来までお電話でご予約をいただきますよう、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

お電話は診療時間内（8：30～15：00）にお願いいたします。

ご予約先 TEL：096-353-6501（代表）内線3010 小児科外来





いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 47回



医療の標準化に向けてーベストプラクティスモデルの作成ー

統括診療部長 野村 一俊

現在、各領域において診療ガイドラインの整備が進み、診療の標準化が進みつつあります。診療ガイドラインでは、治療の選択規準や治療内容について記載されていますが、EBMの少ない細かな医療行為までの記載はありません。

クリティカルパスは、各医療機関が治療法毎に作成した診療・看護・リハビリ等の入院から退院までの日々の計画書です。これまで、クリティカルパスは種々のEBMや過去のデータに基づき作成され、医療の標準化に役立っていると言われてきました。しかし、実際には同じクリティカルパスでも各医療機関において大きな差異がみられます。そこで、全国の国立病院機構病院に対するアンケート調査に応じて提出された17施設の変形性股関節症の人工股関節置換術クリティカルパスを対象として内容のバラツキを調査しました。そして、さらに各施設の1年間の手術症例のアウトカムについて調査しました。バラツキの調査項目は術前入院日数、術後入院日数、退院規準内容、抗菌薬の銘柄

と投与期間、肺塞栓症予防法、歩行訓練開始日、シャワー開始日、ドレーン留置期間、術後血液検査、X線撮影等です。これら全てにおいて、驚く程の医療機関間の差異が認められました。術後のアウトカムについては、入院期間、術後3月以内の感染率、脱臼率を調査しました。これらのアウトカムについては各医療機関間に差異はみられませんでした。これらの結果より各施設のクリティカルパスを組み合わせることによりベストプラクティスモデルを作成出来ることがわかりました。

クリティカルパスは、見直しにより医療の質の向上に貢献します。ベストプラクティスモデルは、自施設のクリティカルパスを見直す上で大変役立つものと期待されます。これらの研究は、肺がん肺葉切除、扁桃摘出術、小児市中肺炎、軽症脳梗塞、胃全摘術、経尿道前立腺切除術、糖尿病教育入院についても同時に行われ、同様の結果が得られています。

表1：クリティカルパスの術後入院期間のバラツキ

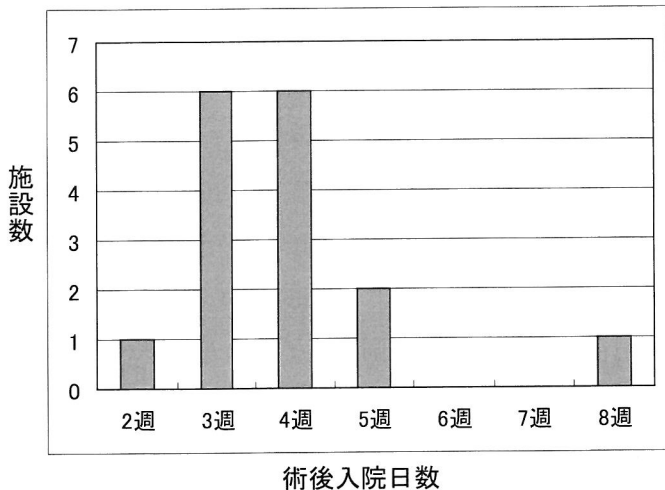
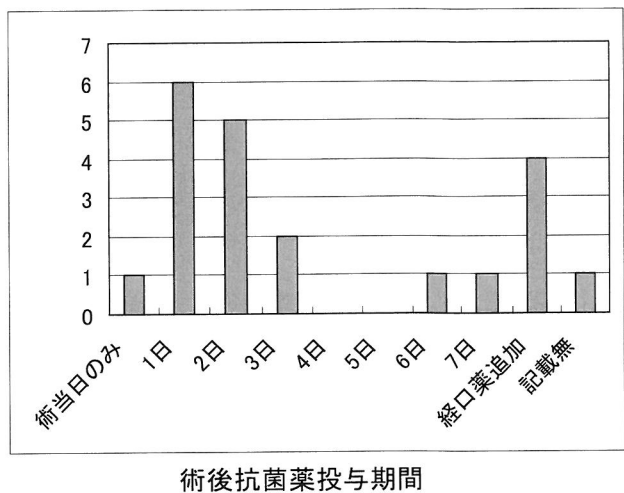


表2：クリティカルパスの術後抗菌薬投与期間のバラツキ



ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

## 新任職員紹介



救急救命部

木村 文彦

みなさまはじめまして、木村文彦と申します。

平成7年に川崎医科大学を卒業後、川崎医科大学附属病院高度救命救急センターで15年間救急医として従事してまいりました。専門は、救急医療全般ですが、特に外傷診療、熱傷治療、中毒治療、ドクターヘリによる病院前診療等に力を入れてまいりました。

このたび、平成22年9月より、故郷の熊本へ帰し、熊本医療センター救命救急部スタッフとして勤務することとなりました。当センターは、熊本でも有数の救急車受け入れ台数をほこり、さらに救命救急センターとして病診・病病連携の最後の砦という重責を担った病院と認識いたしております。私も、当センターの掲げております「決して断らない医療」の信条の元、今後熊本の救急および地域医療に微力ではございますが貢献していくことができれば幸いと考えております。みなさま、どうぞ宜しく願いいたします。

## 研修医レポート

臨床研修医

1年次 山本 結美



こんにちは。研修医一年目の山本結美と申します。久留米大学医学部を卒業し、今日まで、気がつけばもう4か月が経ちました。右も左もわからないような新米でしたが、ようやく病院にも慣れ、病院内で迷子になることが少なくなりました。

私は循環器内科から研修が始まり、救急救命部、消化器内科とお世話になっております。

最初に回らせていただいた循環器内科では、患者さんを受け持つことは当然のことですが、心臓カテーテル検査の際に大腿静脈を穿刺し、スワンガンツカテーテルを進め検査を行うことも研修医の仕事です。正直、そんな侵襲的な検査を大学を卒業したばかりの私たちがさせてもらってよいのだろうかと思いましたが、指導医の先生方は手順など丁寧に指導してくださり、なかなかうまくいかない事もありましたが、毎日楽しく、

充実した研修を行うことができました。大腿静脈穿刺は他科でも、中心静脈カテーテル挿入する際に役に立っています。

救急救命部では救急を要する患者さんへの初期対応の流れを学びました。ある主訴で来られた方へ、どのような病態を考え、身体診察をし、どのような検査をオーダーすべきか、まずすべき治療は何かなど、救急の場における咄嗟の判断を目の当たりにすることができました。この経験は、もし病棟患者さんが急変したときにどのように対応するか役に立つと思います。他に、採血、ルート確保、中心静脈カテーテル挿入、気管内挿管、気管支鏡検査など様々な手技をさせていただきました。重症患者さんのICUでの管理なども経験でき、慌ただしくも充実した毎日でした。

現在は消化器内科を回らせていただいておりますが、消化器内科では早くも検査医として腹部エコー検査を行っています。まず一人で検査した後に、指導医の先生にチェックしてもらおうという形ですが、検査医としての責任をひしひしと感じております。

まだまだ未熟で様々な先生方、スタッフの方々にご迷惑をおかけすると思いますが、日々成長できるよう、精一杯頑張りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



# 研修のご案内

## 第66回 特別講演(無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年10月6日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 国立病院機構熊本医療センター副院長

河野 文夫

「呼吸器疾患のトピックスー肺癌・喘息・COPDー」

熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器病態学教授 興梠 博次先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第141回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年10月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「シンベースメントメンブレム・シンドロームの2症例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

4. ミニレクチャー「癌性疼痛の疼痛管理について」

国立病院機構熊本医療センター血液内科 榮 達智

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第110回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成22年10月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「高浸透圧高血糖症候群を呈したSLE、PBCおよび脳梗塞後遺症を合併した2型糖尿病の一例」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 島川明子、楊拓也、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
  2. 「シタグリプチンにより良好な血糖コントロールが維持できた食事摂取が不規則な2型糖尿病の一例」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 楊拓也、島川明子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。
- 〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

## 第6回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成22年10月23日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本市医師会

吉田 直矢 先生

演題:「食道胃静脈瘤の集学的治療」

1. 症例呈示:集学的治療を行った一例 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋
2. 内科の立場から:内視鏡治療 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 中田 成紀
3. 外科の立場から:外科治療 国立病院機構熊本医療センター外科医長 大堂 雅晴
4. 放射線科の立場から:IVR治療 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 荒木 裕至
5. 食道胃静脈瘤の病態と治療 財団法人柳川病院 院長 於保 和彦 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

## 第100回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年10月27日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:『透析中の患者の発熱ショック』

(70歳代 男性)

臨床担当)国立病院機構熊本医療センター救急科医師

櫻井 聖大

病理担当)国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「慢性腎不全にて透析中の患者が発熱、ショックとなって入院となった。」

\*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2010年

# 研修日程表

10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研修室	その他
1日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
4日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
5日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
6日(水)	19:00~20:30 第66回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 「呼吸器疾患のトピックスー肺癌・喘息・COPDー」 熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器病態学教授 興梠 博次		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
7日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
8日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
9日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ研修 「標準予防策・感染経路別予防策」		
12日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C 1
13日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
14日(木)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会		7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
15日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
16日(土)	8:50~16:50 第3回 ナースのための癌性疼痛緩和ケアセミナー (講演) 1. 痛みのメカニズムと癌の痛み 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 2. 痛みのアセスメント 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 宮崎 直樹 3. 悪い知らせを伝えるコミュニケーション (SHARE) 国立病院機構熊本医療センター緩和ケア認定看護師 岩井 幸 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永 浩子 4. 疼痛緩和の実際 (オピオイド療法) 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 上妻 精二 5. オピオイドが効きにくい時の対応 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀬 賢一郎 6. 呼吸困難・消化器症状・精神症状への対応 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 榮 達智 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永 浩子		
18日(月)	19:00~20:30 第141回 月例会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座 単位認定】		8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
19日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
20日(水)	18:30~20:00 第65回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	13:00~17:00 糖尿病教室(研2)	17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
21日(木)	20:00~21:30 第55回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本県歯科医師会学術理事 牛島 隆 「脳損傷による摂食嚥下障害と高次脳機能障害について」 熊本機能病院総合リハビリテーション部言語聴覚療法課長 小園真知子	19:00~20:45 第110回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座 単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
22日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝硬変」	8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
23日(土)	15:00~17:30 第6回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 熊本市医師会 吉田 直矢 「食道胃静脈瘤の集学的治療」 1. 症例提示：集学的治療を行った一例 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 2. 内科の立場から：内視鏡治療 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 中田 成紀 3. 外科の立場から：外科治療 国立病院機構熊本医療センター外科医長 大堂 雅晴 4. 放射線科の立場から：IVR治療 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 荒木 裕至 5. 食道胃静脈瘤の病態と治療 財団法人柳川病院 院長 於保 和彦		
25日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
27日(水)	19:00~20:30 第100回 総合症例検討会(CPC) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 「透析中の患者の発熱ショック」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
28日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
29日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消化器病センター読書室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)